

る。

昭和八年度の軌道事業豫算總額二千二十七萬圓に對し一日一萬圓以上の缺損を招來し、已に三百五十萬の赤字を出し年度末には五百五十萬圓に達せんとするに居る。是に圓貨暴落に依る爲替差損金二百五十萬圓を合算するならば、八百萬圓の巨額なる赤字を生ずべき必然的狀態にある。

斯くの如く電氣局財政を窮迫せしむる二億三千萬圓の公債の發端は、民營市街鐵道買収に當り過大なる價格の見積りや成すと共に、不當なる權利金を支拂ひたるに起因し、爾來好況時代に於ける濫費と無成算なる公債の濫發當局理事者の無責任なる經營と、不當行爲等々に依つて逐年累積増大したものである。従つて二億三千萬圓の公債の大半は何等生産の價値なき空資本である。

當局理事者は現在の財政破綻の原因が以上述べたる不生産資本の利拂ひにあることは餘りにもよく知つて居るのだ。然るに何故空資本に對する積極的整理、即ち市に對して移譲すべく努力しないのか、それは彼等が資本家の忠實なる番頭なるが故との一言にして盡きるのだ。

## 二、電氣局理事者と市會議員との關係

過去より現在に於ける電氣局最高理事者は、皆何れも有力なる市會議員のバックがなければ、一日も其の椅子に居る事は出来ないのだ。市會議員のバックに依り理事者として入局せる者は言ふまでもなく、下よりこつこつ叩き上げた者も有

二二

力無力の差こそあれ市會議員を背後に持たない者は一人もないと言つても敢て過言ではな。

然らばバックとして有力なる市會議員とはどんな奴か、過去に於て市會の大御所として權勢を振ひたる者を顧みて、高橋義信、中島守利、三木武吉、瀬川光行、大神田軍治等々砂利を喰ひ、軌道を呑み板船をかぢり瓦斯を吸ふ妖怪である。

斯くの如き妖怪が傳統的に市會の重鎮として、常に電氣局の財政人事に干渉し、當局理事者又之等妖怪の御機嫌を取るのに吸々として居るのだ。かゝる理事者に對し財政の根本的立直しを望むは木によつて魚を求むるに等しい。

電氣局は名目は東京市の公共事業的經營の如く見られて居るが、根本に於て事實純然たる資本家的營利組織であつて、利益は公債所有者たる金融資本家に吸収されると共に、前述の如き不良市會議員の喰物にされつたのだ。剩へ世界を風靡する深刻なる不景氣の荒波に翻弄され、從來不況の影響少なかりし交通産業も其の打撃を蒙る一方省電還條線の完成、郊外電鐵の市内乗入れバス回タクの激増等々の挾撃に極端なる減收を來たして居る事は今更説明の必要を認めない。

電氣局は以上の如く自己の誤更の經營と自立的減收の責任を常に従業員にのみ轉嫁し、過去數ヶ年凡ゆる手段方法に依り大量餓首と貸下労働加重の彈壓を強要し來つたのだ。

## 三、第一更生案の回顧と強制調停法の體裁

電氣局は昨年十月二十一日吾々の代表者を招致し、所謂百

限らんか、組合の削減を招來し一萬三千の生命線を切断される事を慎重に考慮せねばならぬ。現在吾々に據せられつゝある彈壓の鉾先を金融資本、團體、市會等に轉向せしめねばならぬ。其の方法として一般市民に左の條項を知らしめる事が最も必要である。

### 一、電氣局の財政的破綻の根本原因

一、吾々の日常勤務が精神、労働の二重層なる點よりして現在の労働條件が社會一般の表面觀察の如く好待遇ならざる事

一、不良市會議員と當局不良理事者との因果關係を暴露する事

一、二億三千萬圓の公債を市に移讓する事なくして絶體に電氣局財政を立直し得ざる事

一、従業員の貸下餓首を幾度敢行するとも電氣局財政は絶體に更生し得ざる事

如上の宣傳を執拗になし五百萬市民に徹底せしめると共に組合内部に蠢動する獅子心中の蟲反動アツション及び労働ブローカーを掃蕩し、以つて陣容の整備を成し、電氣局内部に異食ふ不良理事者を驅逐し、續いて砂利を喰ひ、軌道を呑み板舟を喰ひ瓦斯を吸ふ市會議員の假面を冠むる妖怪退治の爲め、訓練されたる軍隊の如く、東交の旗を陣頭に堂々と押進めてこそ、電氣局財政を根本より確立せしむること同時に、貸下餓首の彈壓を粉砕し待遇改善の闘争へも進むことが出来るのだ。

二三

年の大計なりと稱して千六百名の餓首と人件費二百萬圓削減の大暴壓を下したのである。豫想以外に廣汎に亘る大彈壓に一萬三千大衆の憤激は澎湃として嵐の如く捲起り、怒髮天を衝き一路ストライキへと繰進したのである。本部首腦部は組合の玉帛を培して断手ストライキを以つて逆襲すべく決意し断の指令は正に鼓を離れんとした間一髪、警視廳は首腦部を一網打盡となし之をラ致し、強制調停に附したのである。彼等の強制調停法は資本家擁護の「**傳家の寶刀**」なれども、吾々労働者に對しては手を切り足を截ち生命を止むる村正の如き妖刀である。此の妖刀村正の爲に完備せる戰時編成は千々に切断され、前古未曾有の大暴壓は易々として行れたのである。

其の後當局は矢張り早く電軍部に對してスピードアップに依る労働加重と賃銀低下自動車に對しては出勤時間の繰上げ二人一車制の彈壓を強行したのである。電氣局が昨年百年の大計と稱して断行した第一更生案も當時吾々が断言したるが如く、一年を出でずして根本より覆され、本年度の赤字總額は八百萬圓に達せんとする必然的狀態にある。今や當局理事者は赤字補填對策に焦慮し、極秘の中に第二更生案を樹立し廣汎に亘る貸下餓首の彈壓を下さんと虎視眈々として吾々の隙隙を窺ひつゝあるのだ。

## 四、我々の闘争目標と對策

吾々は電氣局の財政的破綻の危機に於て闘争目標と對策を